

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（9月12日-18日）の新規陽性者数は4,546人（先々週7,588人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{1*1}は0.70 [最小値0.35-最大値0.84]、このうち那覇市は0.68 [0.40-0.87]でした。また、宮古は0.67 [0.23-1.67]、八重山は0.63 [0.04-1.36]でした（図1）。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部281人（先々週475人）、中部1,440人（先々週2,335人）、那覇市926人（先々週1,513人）、南部1,577人（先々週2,526人）、宮古139人（先々週322人）、八重山138人（先々週375人）でした（図2）。全県的に減少が続いています。

感染を確認した県外からの渡航者（7日間合計）は43人（先々週42人）でした（図3）。

年齢階級別推移

年齢階級別では、10代792人（18%）と最多であり、10歳未満706人（16%）、40代656人（15%）と続きます（図4）。すべての年代で減少していますが、やや小児の減少には鈍化がみられます（図5）。

入院患者数推移

入院患者数は先週末時点で308人（9月11日時点487人）であり、病床占有率は33%にまで低下しています。このうち酸素投与など中等症患者は159人（9月11日時点233人）と減少が続いています。気管挿管など重症患者は8人（9月11日時点7人）と変わりません（図6）。

高齢者施設や障がい者施設など社会福祉施設で療養している陽性者は、先週末時点で40施設262人（9月11日時点468人）と減少が続いています（図7）。

【今後の見通しと対策】

沖縄県における新規陽性者数は着実に減ってきており、第5波の後に底をうった3月中旬の水準となっています。ただし、やや小児の減少には鈍化がみられており、学校再開に伴う影響について引き続きの注意が必要です。

今週の新規陽性者数は3,000-4,000人へと減少すると見込みます。入院患者数も減少しており、今週末までには、240-260人へと減少すると見込

まれ、さらに状況は改善すると考えられます（図8）。

今年1月以降、オミクロン株による流行となり、急速に感染者数が増加しました。2021年に県内で報告された陽性者数は約4万5千人ですが、2022年は約45万人であり、累積で約10倍の規模となっています。

この夏の第7波において、入院受療率や致死率

¹ 最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における

日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

は昨年の7分の1に低下していますが、それ以上に流行規模が拡大しているため、結果的に多くの入院患者が発生して医療がひっ迫し、昨年以上に被害が拡大する結果となりました。

新型コロナウイルスとインフルエンザの受診状況は異なる為簡単に比較は出来ませんが、インフルエンザと比較して新型コロナウイルスは、高齢者を含む重症化のリスクが高い人がより多く受診していると考えられます（図9）。これにより、入院病床だけでなく、救急医療のひっ迫が生じたと考えられます。

今後の感染状況について、ウイルスの変異により病原性が変化する可能性はありますが、オミクロン株に相当する感染力は維持されたまま、この冬の流行を迎えるものと想定した場合、年末年始は親族交流が活発となるため、この夏よりも高齢者などハイリスク者の感染が増加する恐れがあります（図10）。

このため、この冬には小児から高齢者に至るまで、多くの感染者が発生するものと想定して、オンライン診療、一般外来、救急外来の診療体制を整備しておく必要があります。また、インフルエンザとの共流行も想定して、新型コロナウイルスとインフルエンザのワクチンについて、同時に接種を進めておくことも必要です。

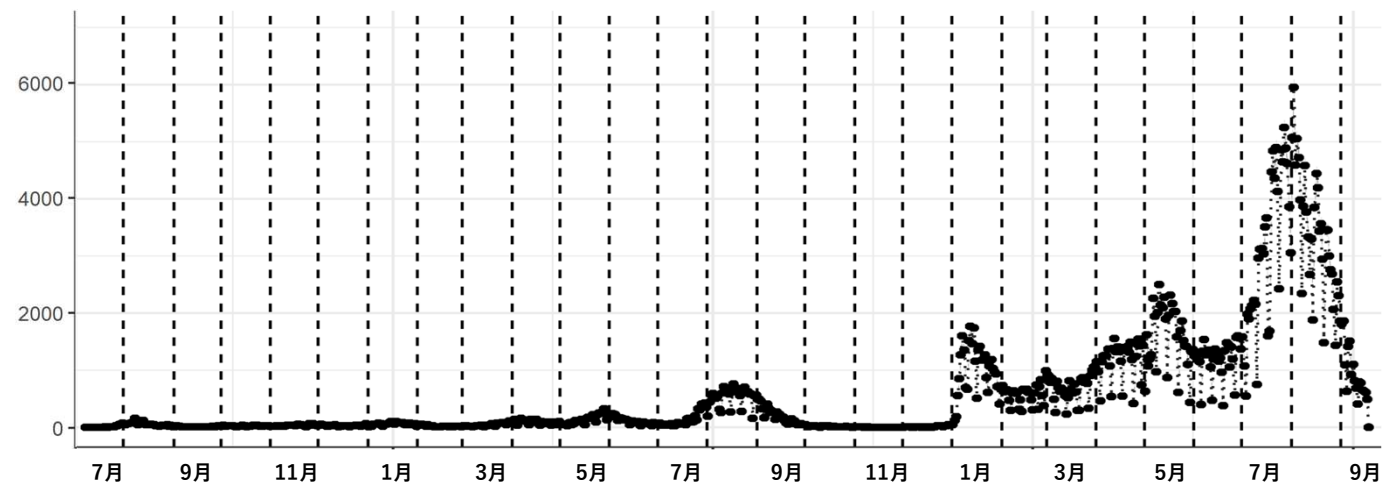
なお、沖縄県内におけるインフルエンザの定点報告数は、9月5日の週には46人（北部0人、中部21人、那覇市3人、南部12人、宮古3人、八重山7人）と増加してきています。流行開始の目安は、定点報告数が57人（定点あたり1人）を上回ることでされており、例年よりも早く流行が始まる可能性があります。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）



実効再生産数

直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）

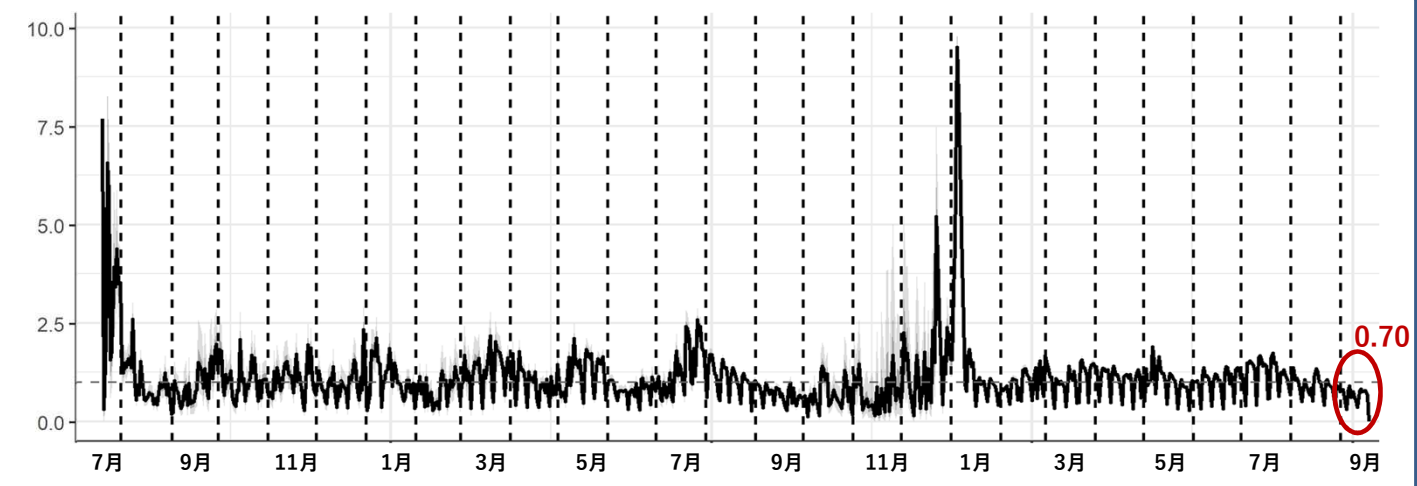


図2 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

人口10万人あたり7日間合計

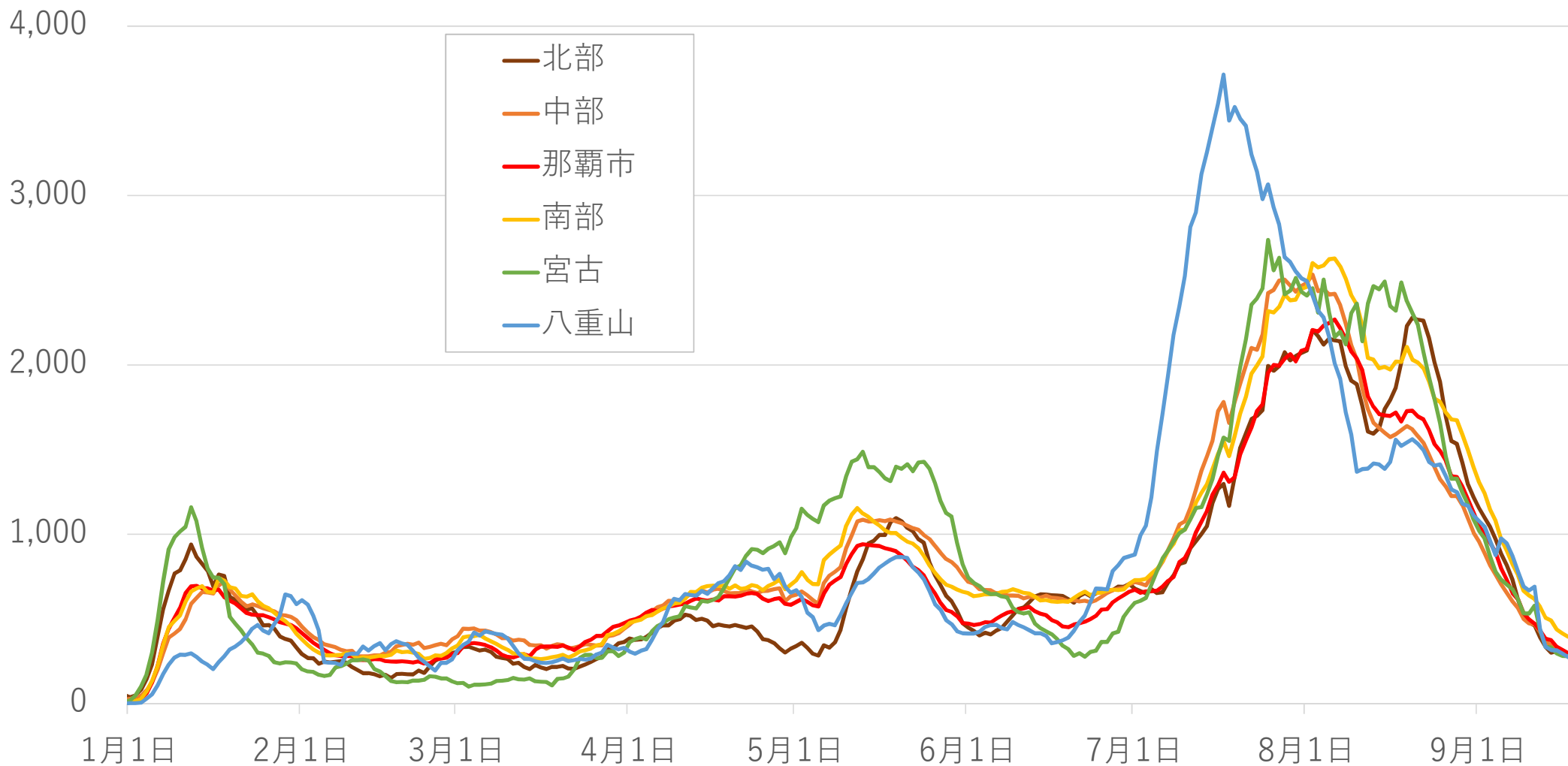


図3 県外からの渡航者における新規陽性者数の推移（沖縄県）



図4 性年齢階級別に見る陽性者数 (9月12日~18日)

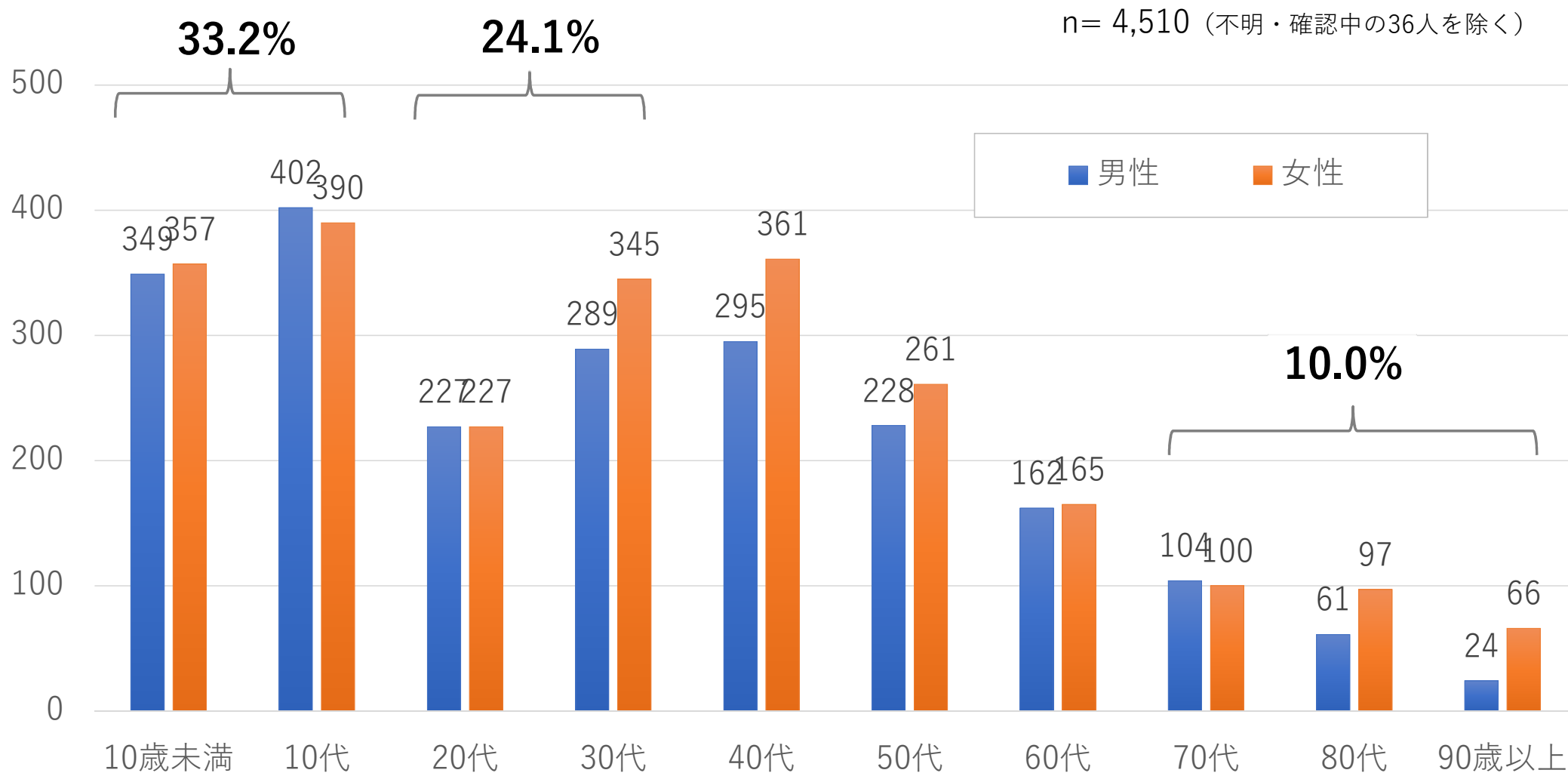


図5 年齢階級別にみる新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)

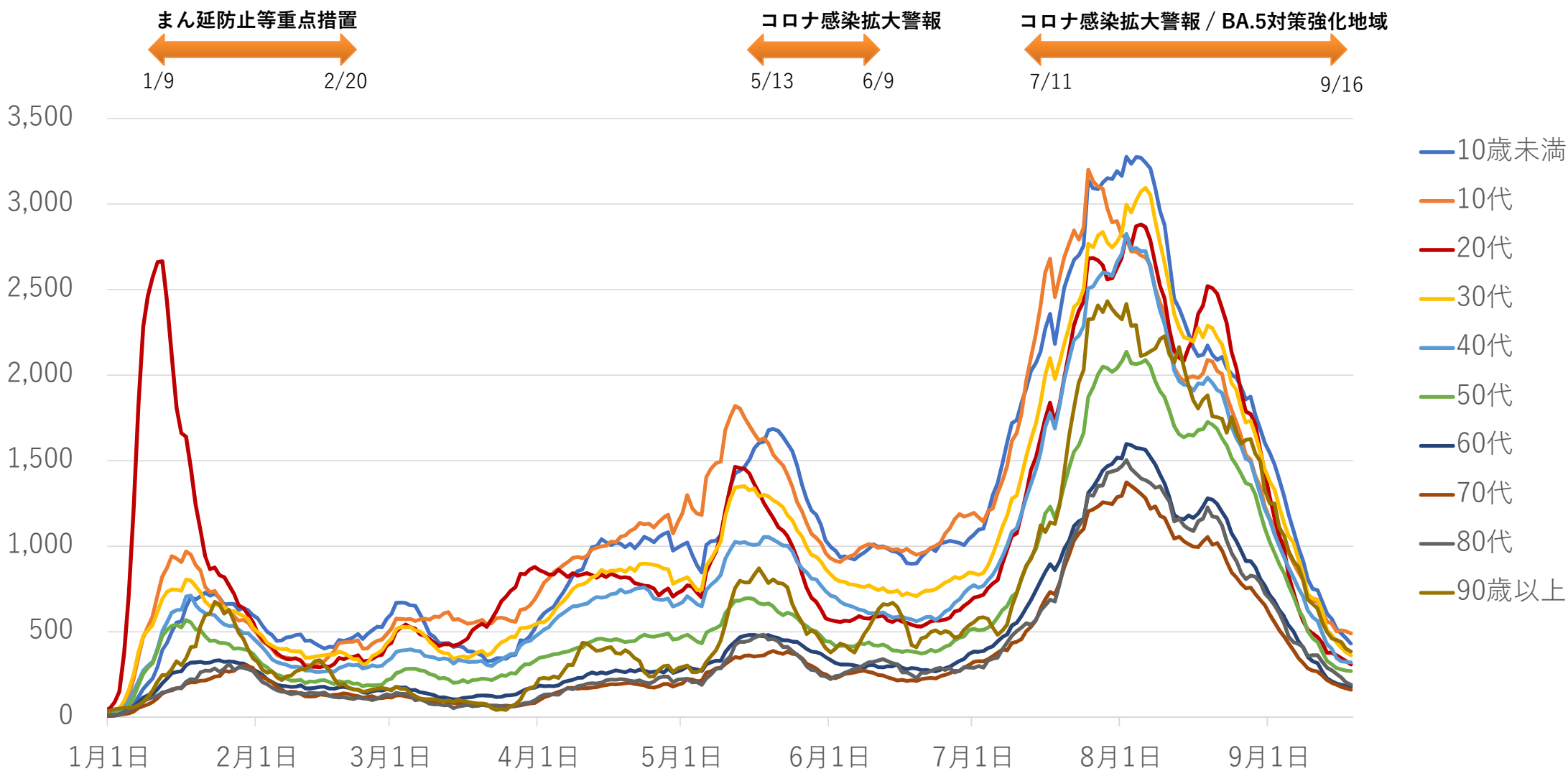


図6 新規陽性者数と重症度別入院患者数の推移

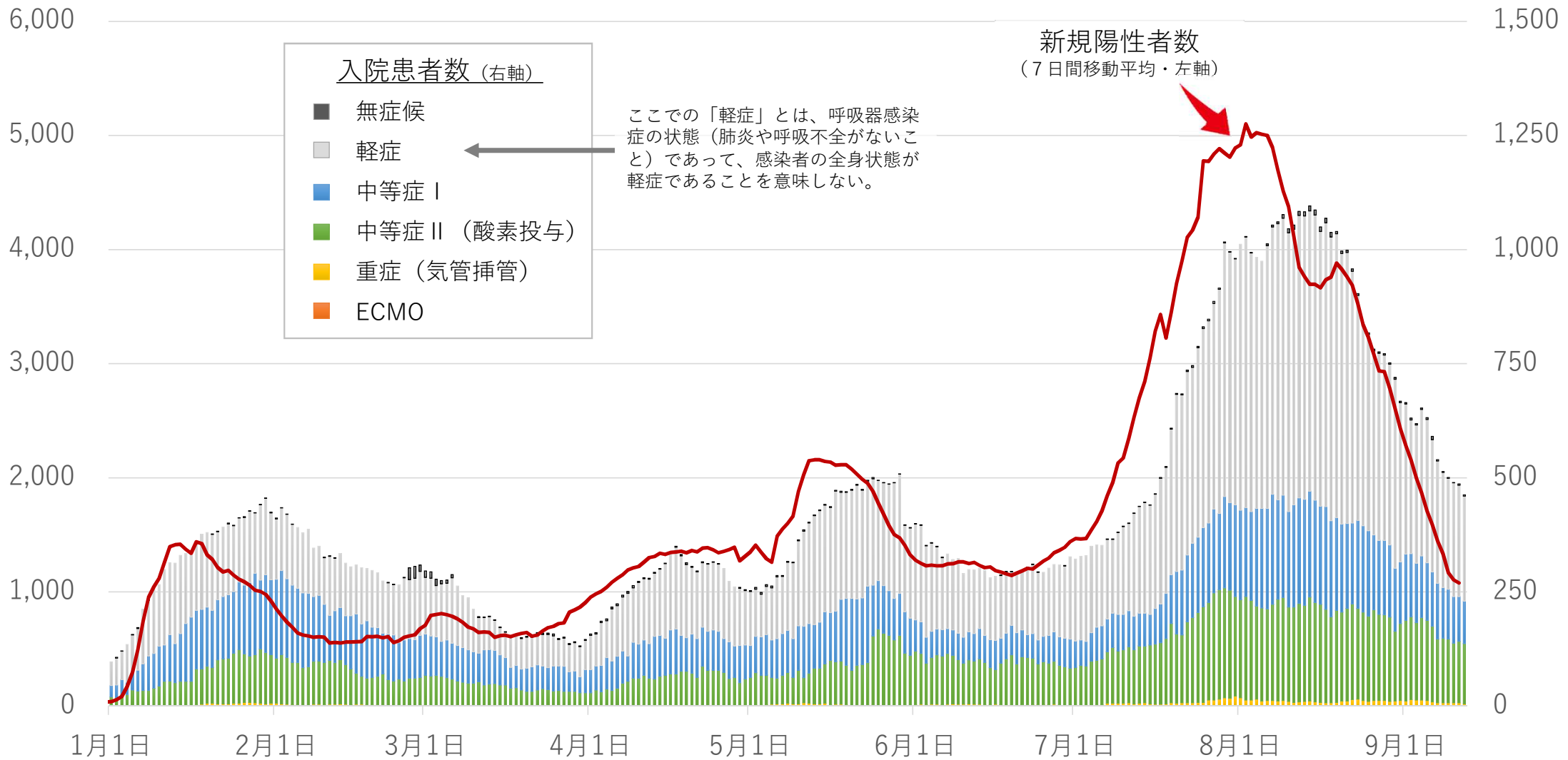


図7 社会福祉施設における施設内療養者数

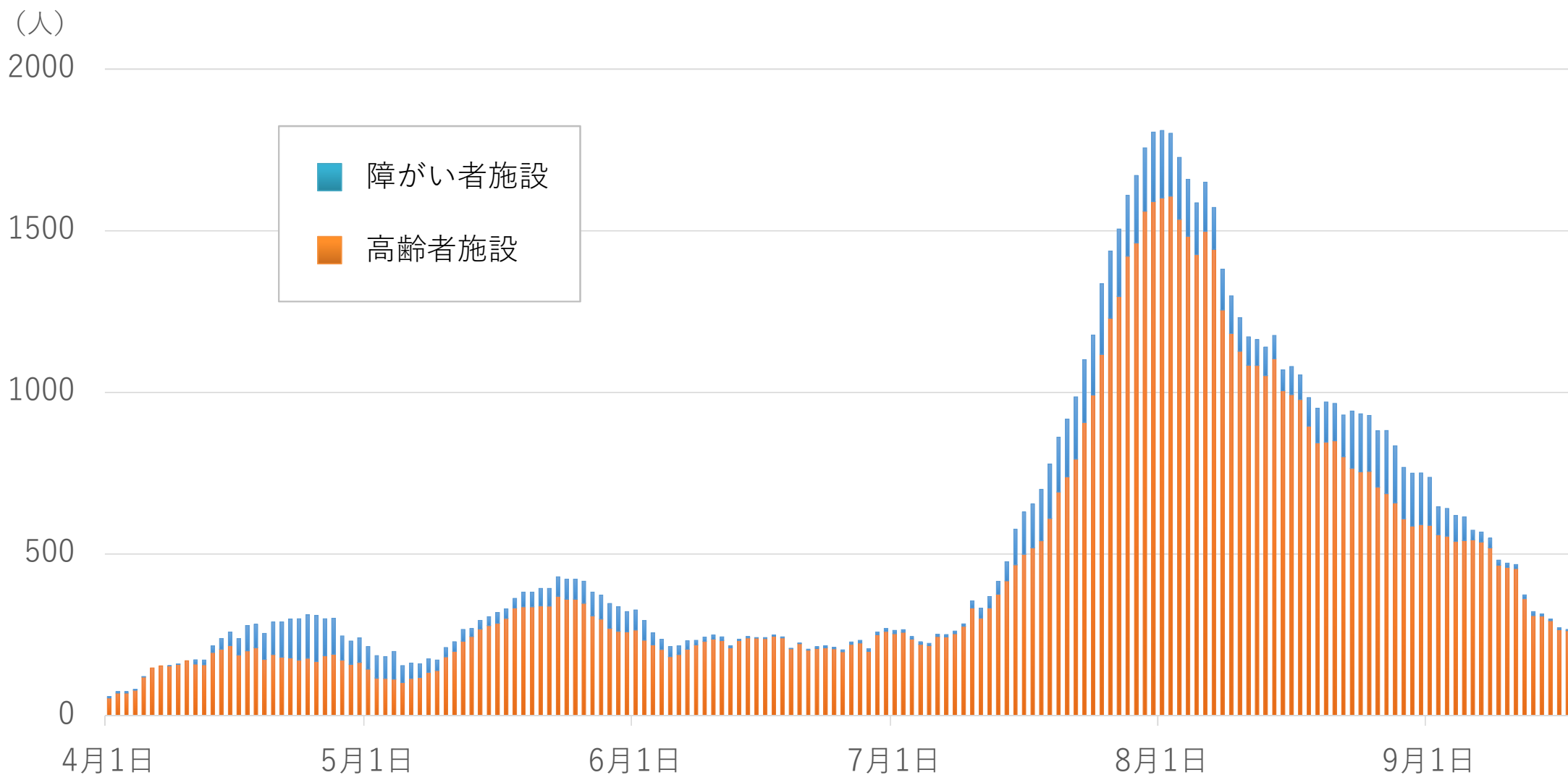
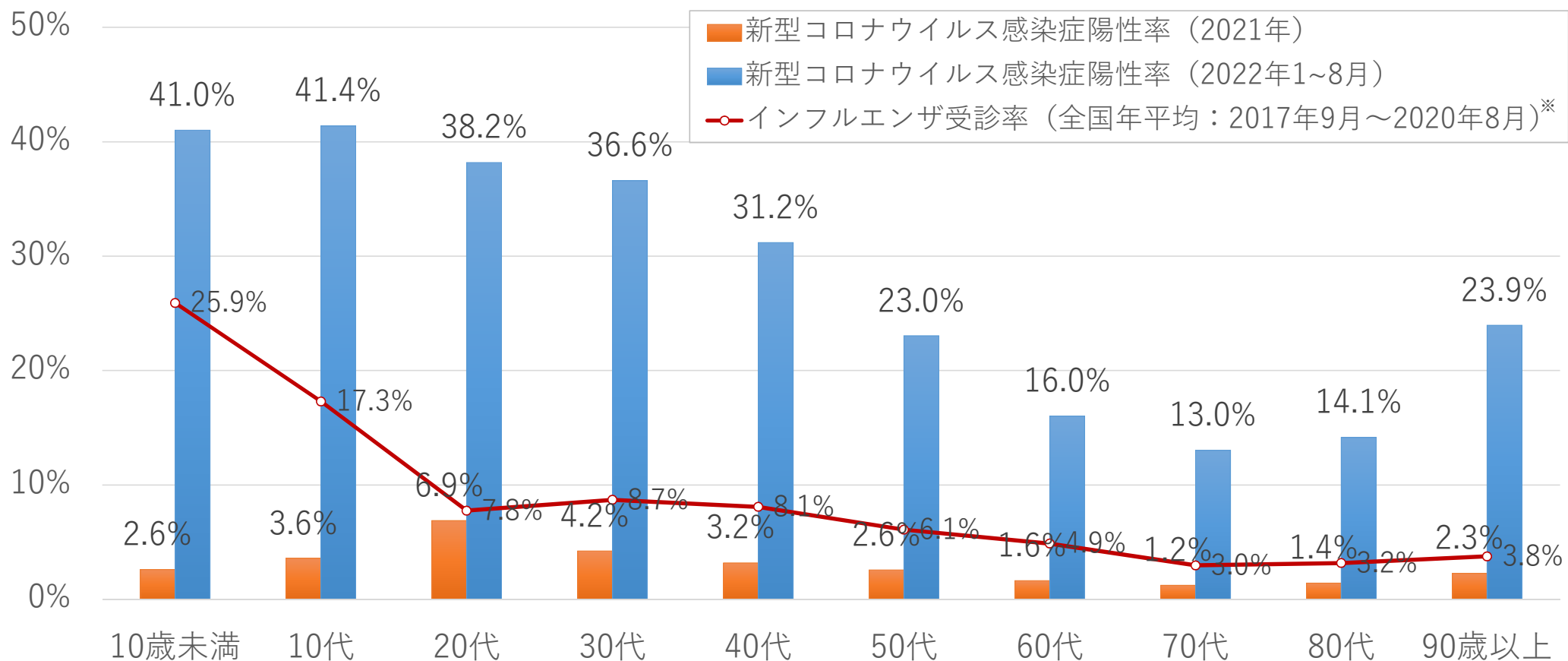


図8 今後1週間（9月19日-25日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数（9月25日時点）		
	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
沖縄本島	2,135	4,300	8,659	217	255	317
宮古圏域	77	156	314	3	4	5
八重山圏域	72	144	290	9	10	11
合計	2,284	4,600	9,263	230	269	334

図9 年齢階級別に見る陽性率/受診率の推移（沖縄県）



陽性者数 (人)	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上
2021年	4,309	1,594	3,513	2,415	2,190	1,737	1,399	792	623	295
2022年1~8月	67,797	67,091	56,189	64,426	64,200	41,895	29,886	16,719	11,722	5,612

※ 野田龍也：日本の医療データベースから算出された季節性インフルエンザの重症化率（第74回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード提出資料）

図10 沖縄県における前週比（7日間移動平均）の推移

